

岩富漆谷津遺跡について



縄文時代の弥富地区 (漆谷津遺跡)について

うるしやついせき

漆谷津遺跡とは、飯塚古墳群を含む周辺の田んぼや集落、なんと 旧弥富幼稚園園庭 を含む大きな遺跡です

↓ 発掘の様子



そして遺跡の敷地内から

はにわ 勾玉 土器片

まがたま なつめだま

勾玉 棗玉 管玉などが出土されました



✎ はにわや勾玉など出土されたものについて ✎

はにわ…古墳の周りなどに置かれた土製の焼いた飾りもの

勾玉…c字に曲がった翡翠(ひすい)などで作られたペンダントのようなもの

管玉…勾玉などと合わせて使われた今で言うビーズ製のブレスレット(当時で言う腕輪)

棗玉…長めの管玉のような装身具

土器片…土器のかげら

参照 Google AIによる概要

弥富の標高約22メートルの段丘上にあり、現在では遺跡の北側が弥富小学校となっています。



初めて生活の痕跡を残したのは縄文時代草創期の人たち！



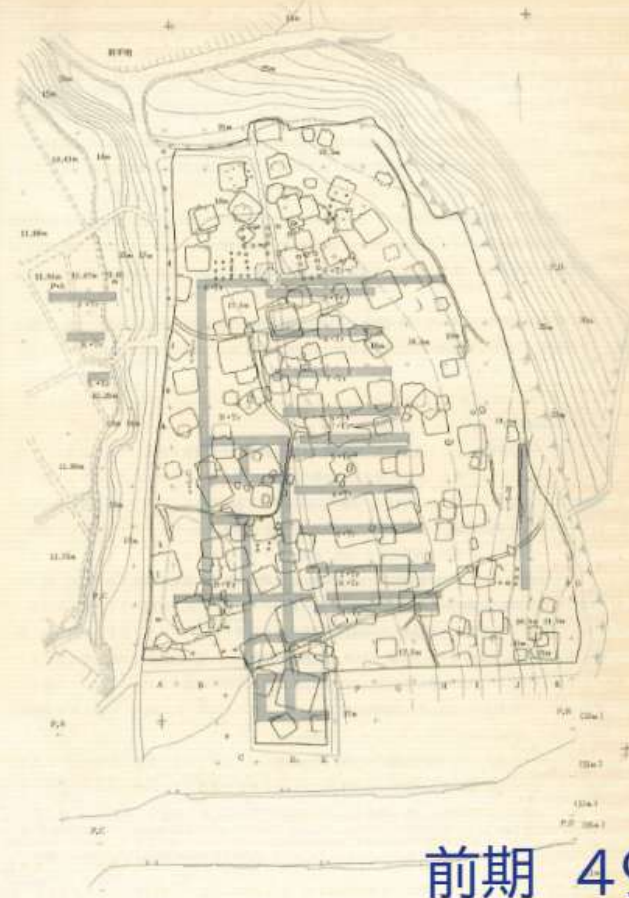
千葉県内でも出土例の少ない押圧縄文系土器のカケラが見つかった！！



『弥富付近の遺跡&古墳』



『住居跡の数』



第2図 グリッド配図 (1/1,000)

前期	49軒
中期	20軒
後期	57軒

弥富小学校です。



上空から見た岩手県岩手郡弥富町全図（1/2,000）
図説1961、9、15（社団法人航空写真事業株式会社）

古墳時代の岩富漆谷津遺跡で特色あるのは、祭祀に使用されたとされる鏡・剣・玉を模した石製模造品が数多く出土しています。

その石材には

・緑色片岩・緑色岩・蛇紋岩・千枚岩・雲母片岩
が用いられ、完成品ばかりでなく、制作前や制作途中にあるもの、
また当地での制作を物語る屑が見られています。
この他、・滑石・蛇紋岩・雲母片岩・緑色凝灰岩製の管玉、凝灰岩製の丸玉、ガラス製の丸玉・小玉、土製の丸玉・小玉・勾玉・棗玉・管玉
などが出土しています。

岩富漆谷津の集落は古墳時代後期に廃絶し、平安時代のうち9世紀になると、それほど長い期間ではありませんが再び集落が営まれ、そしてまた廃絶しました。遺跡の10世紀以降の様相は不明確ですが、室町時代には一部が墓地として利用されていました。

皆さんも気になることがあれば調べてみてください

おわり



出典
・原始、古代の佐倉
・岩富漆谷津、太田宿